

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈9月20日（金）放送分〉

テーマ「奄美群島12市町村の伝説・昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第3金曜日にお届けしている、奄美の伝説や昔話などを紹介する「奄美群島12市町村」シリーズの第6回目、瀬戸内町^{せとうちちよう}の昔話「占^{うらな}い男の話」です。

昔、あるところに子どものいない夫婦が暮らしていました。男はよく旅に出て、家を空けることが多かったそうです。あるとき男の姉が、「あなたのお嫁^{よめ}さんがあなたの留守^{るすちゆう}中^{ちそう}によくご馳走を作って食べているよ、そんなことではとても家計^{かけい}がもたないでしょう。」と言いました。

ある日、男は旅に出る真似^{まね}をして家を出て、近くの山の上から家の様子を見ていました。しばらくして、男は家に戻り、「予定が変わったので急いで帰ってきたよ。」と妻に言いました。妻は男にお茶を入れるだけで、ご馳走を出すことはありませんでした。男はお茶を飲むと横になり、「頭^{たま}がかゆいからちょっと見てくれ。」と妻に言いました。男がそうしながら耳を^{たたみ}に付けていると、虫か何か^{ゆかした}が床下で「茶だんすの中にご馳走が入っているよ」と言っているのが聞こえました。男がそのことを妻に言うと、「作ってもいないご馳走を出すことはできません」と妻は返事をしました。男は待てよと思い、今度は反対側の耳を^{ゆかした}に押しつけて聞いてみると、やっぱり同じように「茶だんすの中にご馳走が入っているよ」と言っているのが聞こえました。ついに男が茶だんすを開けてみると、妻の言葉とはうらはらに、本当にご馳走がありました。妻はびっくりして、このことを村^{むらじゆう}中に話してまわりました。

そんなある日のこと、村で三百両^{りよう}のお金^{ぬす}が盗まれるということが起きました。やがて男のもとには、盗まれた三百両のお金^{ゆくえ}の行方を占^{うらな}って欲しいという相談がきました。男は馴れない手つきで線香^{せんこう}を立て、花などを^{そな}へ、神を招きよせるようにして占^{うらな}いを始めました。そのことが功^{こう}を奏^{そう}したのか、あるいは盗人が男の占^{うらな}いがよく当たるのを知っていてそれに恐^{おそ}れをなしたのか、夜中の12時ごろにそっと男を呼ぶ声がしました。男が外に出てみると、そこには三百両のお金を盗んだ張本^{ちようほんにん}人^{ぬすびと}がいました。盗人は、「あなたの占^{うらな}いにかかったら一も二もなく盗んだことが分かってしまうから、その前にお願いに来ました、どうか私を助けてください。」と男に懇願^{こんがん}しました。男は、「よし、みんなに知られる前によく来てくれた、このことは誰にも話さないから、その手洗^{ばち}い鉢^{はち}に三百両のお金は入れておきなさい。」と盗人^{さど}を諭^{さと}しました。これで、

三百両の盗難で騒いだ村も、男の占いで見事に解決して落着し、やがてその評判は国中に広まりました。

そんなとき、国の殿様が病気になりました。男は、殿様の病気を治すように祈願して、病気の原因を占ってほしいと依頼されました。無理難題を押しつけられた男は、今はもう絶体絶命の状況でした。もともと占いなどを全く知らない男は、恐れをなして遠くの山へ逃げていこうとしました。するとそのとき、白髪で長いあごひげを垂らしている神様が通りかかるのに出会いました。

その神様の導きによると、殿様の病気の原因は、新築した御殿の屋敷にあるということでした。さらに、その屋敷の場所は、もともとは泉であり、屋敷の下には亀が埋められているということでした。したがって、その亀を掘り出せば殿様はすぐによくなるだろうということでした。

神様の話を聞いた男がそのとおりにやってみると、屋敷の下から本当に埋められていた亀が出てきて、やがて殿様はすっかり元気になりました。そのおかげで男は無事に暮らすことができました。

さて、みなさんは「占いやお告げ」を信じますか。さきほどのお話のように、どこからともなく声が聞こえてきて真実が明らかになったりすれば、いろいろと助かることも多いでしょうね。

今回のお話の最後では、絶体絶命の状況から逃げ出した主人公が、神様と出会ってしまうという、スーパーミラクルが起こります。神様の姿はイメージどおりとしても、なぜ山を歩いていたのかが少し気になるところです。

もしかすると男がこのような幸運に恵まれたのは、三百両の大金を盗んだ人に対する優しさがあったからでしょうか。「罪を憎んで人を憎まず」と言いますが、いろいろと考えさせられる部分です。

奄美図書館には、このような面白いお話を紹介した本がたくさんあります。また、占いの本も多数ご用意しております。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、みなさまのご来館を心よりお待ちしております。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。